

第三者検証報告書

本報告書およびWeb開示の環境報告データの信頼性を高めるために第三者機関による検証を受けました。

「」のマーク(P.96)は、検証の対象データです。

この検証の対象データと検証手順は次の通りです。

- グローバル温室効果ガス排出量 (Scope1、2、3)
検証手順: IAEA3000 (改訂版) に準拠した検証手順と ISO14064-3
- グローバルエネルギー使用量、国内工場の水使用量、排水量、廃棄物排出量
検証手順: IAEA3000 (改訂版) に準拠した検証手順



LRQA独立保証声明書

住友ゴム工業グループの2022年温室効果ガス排出量インベントリ、エネルギー消費量、廃棄物排出量、水使用量および排水量データに関する保証

この保証声明書は、契約に基づいて住友ゴム工業株式会社に対して作成されたものです。

保証業務の条件

LRQA リミテッド (LRQA) は、住友ゴム工業株式会社 (以下、組織という) からの委嘱に基づき、2022年 (2022年1月1日~2022年12月31日) の温室効果ガス (以下、GHG という) 排出量インベントリ、エネルギー使用量、廃棄物排出量、水使用量、および排水量のデータ (以下、報告書という) について、下記の基準に対して LRQA の検証手順を用いて限定的保証レベルと検証人の専門的判断による重要性によって保証業務を実施した。LRQA の検証手順は、GHG 排出量データについては ISO14064-3 を参照しており、現在のベストプラクティスに基づいて ISAE3000 (改訂版) に準拠している。

LRQA の保証業務は、GHG 排出量とエネルギー消費量については住友ゴム工業グループの日本国内外 76 社の製造拠点と非製造拠点、廃棄物排出量、水使用量、および排水量のデータについては日本国内 6 工場¹の拠点と事業活動、および以下の要求事項を対象とする。

- 選択されたデータが組織の定める報告方法に従っていることを確認すること。
- 下記の選択された指標のデータと情報の正確性および信頼性を評価すること。
 - スコープ1 GHG 排出量、スコープ2 GHG 排出量 (ロケーション基準、マーケット基準) 及びスコープ3 GHG 排出量 (カテゴリ 1, 11, 12)²
 - エネルギー使用量 (単位: 原油換算キログラム)
 - 廃棄物排出量: 廃棄された量 (単位: トン)
 - 水使用量: 使用した体積 (単位: 千立方メートル) であり、水道水、地下水及び工業用水を水源とするもの
 - 排水量: 排出された体積 (単位: 千立方メートル)

保証業務の範囲は、報告書に言及されている組織のサプライヤー、業務委託先、その他第三者のデータおよび情報を除く。

LRQA の責任は、組織に対してのみ負うものとする。脚注で説明されている通り、LRQA は組織以外へいかなる義務または責任を放棄する。組織は、報告書内の全てのデータおよび情報の収集、集計、分析および公表、および報告書の基となるシステムの効果的な内部統制の維持に対して責任を有するものとする。報告書は組織によって承認されており、その責任は組織にある。

LRQA の見解

LRQA の保証手続において、組織が全ての重要な点において、

- 上記の要求事項を満たしていない
- 下の表 1 及び 2 に要約された GHG 排出量と主な環境データについて正確かつ信頼性のあるデータと情報を開示していない

ことを示す事実は認められなかった。表明された意見は、限定的保証水準及び検証人の専門的判断による重要性に基づいて形成された。

¹ 日本国内の、白河、名古屋、泉大津、京都、加古川及び市島の各工場

² GHG の定量化には固有の不確かさが前提となる。



表 1. 住友ゴム工業グループの2022年のGHG排出量の要約

GHG 排出量のスコープ	千トン CO ₂ e	
	A ¹	B ²
スコープ 1 GHG 排出量	386	377
スコープ 2 GHG 排出量 (ロケーション基準)	757	668
スコープ 2 GHG 排出量 (マーケット基準)	530	471

GHG 排出量のスコープ	千トン CO ₂ e	
	スコープ 3 GHG 排出量	
カテゴリ 1	5,073	
カテゴリ 11	32,870	
カテゴリ 12	897	

表 2. 住友ゴム工業グループの2022年の主な環境データの要約

環境データ	数値
エネルギー使用量	524,730 原油換算キログラム
廃棄物排出量	9,537 トン
水使用量	5,316 千 m ³
排水量	4,583 千 m ³

LRQA の保証手続

LRQA の保証業務は、LRQA の検証手順に従って実施された。結論を得るために、保証業務は証拠収集の一環として次の事項を含んで実施された。

- 宮崎工場への訪問審査とデータと記録の管理に係るプロセスのレビューを実施した。
- データと記録の管理を担当する主要な要員へのインタビューを実施した。
- 報告書の重要な誤り、脱漏および記載の誤りを予防するように構築された組織のデータ管理システムを審査した。我々は、内部の品質管理を含めたデータ管理の手順、指針およびシステムの効果的な実施をレビューすることでこれを実施した。
- 集計された 2022 年実績データおよび記録の検証を実施した。

¹ 限定的保証業務の証拠収集は、合理的保証業務に比べて少ない範囲で行われ、各拠点を訪問して元データを確認するより集計されたデータと重点を置いている。従って、限定的保証業務で得られる保証水準は合理的保証業務が行われた場合に得られる保証に比べて実質的に低くなる。

² グループ報告書開示のための組織の自注基準で定義され、2004 年以降に設定された温室効果ガス排出係数に基づく値

³ 定量化の時点で入手可能な現行の温室効果ガス排出係数による値



組織事項

保証業務を通じて更なる観察および発見事項は以下である。

- データ収集・集計の過程で多くの手作業 (排出係数の付与など) がなされているため、誤りの原因となる可能性がある。データの完全性・正確性を確保するために、データチェックシステムを含めたデータ管理体制の改善が期待される。

LRQA の基準、力量及び独立性

LRQA は、少なくとも ISO 14065 「温室効果ガス—認定又は他の承認形式で使用するための温室効果ガスに関する妥当性確認及び検証を行う機関に対する要求事項」 および ISO/IEC 17021-1 「適合性評価—マネジメントシステムの審査及び認証を行う機関に対する要求事項—第1部: 要求事項」の品質管理に関する国際規格の要求事項を満たし、また、国際会計士倫理基準理事会より発行されている職業会計士のための倫理規定に従った包括的なマネジメントシステムを運用し、維持している。

LRQA は、その資格、トレーニング及び経験に基づき、適切な資格を有する個人を選任することを保証する。全ての検証および認証審査の結果は上級管理者によって内部でレビューされ、適用された手続が正確であり、透明であることを保証する。

LRQA は組織に対して、ISO 9001、ISO 14001、ISO 45001 および IATF 16949 の認証を実施している機関である。この認証および検証が、LRQA が組織に対して実施した仕事であり、それ自身が我々の独立性あるいは中立性を損なうものではない。

署名

日付: 2023 年 4 月 24 日



上野 一郎

LRQA 主任検証人

LRQA リミテッド

神奈川県横浜市西区みなとみらい 2-3-1 クイーンズタワーA10F

LR reference: YKA4005028

LRQA, its affiliates and subsidiaries, and their respective officers, employees or agents are, for individually and collectively, referred to in this clause as "LRQA". LRQA assumes no responsibility and shall not be liable to any person for any loss, damage or expense caused by reliance on the information or advice in this document or howsoever provided, unless that person has signed a contract with the relevant LRQA entity for the provision of this information or advice and in that case any responsibility or liability is exclusively on the terms and conditions set out in that contract.

The English version of this Assurance Statement is the only valid version. LRQA assumes no responsibility for versions translated into other languages.

This Assurance Statement is only valid when published with the Report to which it refers. It may only be reproduced in its entirety.

Copyright © LRQA, 2023.